筑紫女学園大学

# 成績評価のガイドライン

## １．成績評価(単位認定)と成績管理の目的

成績（学修）の評価については、学年ごとの試験での評価で、学生が一斉に進級・卒業・修了するという学年主義的・形式的なシステムではなく、個々人の学修の達成状況をより可視化することが必要である。（参照：2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン 18.11.26 答申）

本学では、成績評価基準のガイドラインを策定し、単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施をおこない、教育の質保証を確保する。また、成績管理の適切な運用については点検･評価を行い、必要な改善に繋げていく。

## ２．成績評価および成績管理に関する項目について

以下の項目について策定

① シラバスの作成と閲覧

② 成績評価の指標（GPA）

③ 履修登録単位制限（CAP 制）

④ 単位と学修の量

### ①シラバスの作成と閲覧

個々の授業の単位認定については、シラバスに授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載し、これに基づいて行う。各授業科目について、シラバスを作成し HP 及び学内ポータルサイトで公表する。

- 試験やレポートの内容、学習への意欲などを、どのように学修成果として評価し、単位を与え、または履修を認定しているのかをあらかじめ設定し明らかにしている。
- シラバスには、該当科目を履修することによって身に付けることのできる力（DP＝ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与の方針)を明記し、学生が DP を意識して科目を履修できるように可視化している。（課程科目等一部除外あり）
- 実務経験のある教員の科目については、シラバスへ記載する。（シラバスの検索：キーワード「実務経験」で検索が可能）

HP にて公表《https://www.chikushi-u.ac.jp/syllabus/》

### ②成績評価の指標（GPA）

個々の学生の成績が、学部等の中でどの位置にあるのかを把握することができるよう、GPA※（Grade　Point　Average）を設定し、計算方法などを公表する。

履修した科目の評価は 5 段階の評定とし、卒業に必要な単位を修得するためだけではなく、主体的にかつ充実した学びにするための制度として、GPA を導入する。

なお、GPA は成績評価以外に学修支援や奨学金の給付など様々な場面で使われている。

※【成績評価・GPA（Grade　Point　Average)】

履修した科目の評価は、次表のとおり 5 段階となっている。成績通知書に、学期ごと、通算の成績評価指標としての GPA を付記する。GPA（Grade　Point　Average）は、次に示した算出基準及び計算式に基づき、履修科目のグレードポイントに単位数を加味した加重平均値である。科目の履修が、ただ単に卒業に必要な単位を修得するためだけでなく、主体的かつ充実した学びにするための制度として設定する。

■成績評価・GPA 算出基準

| 合否 | 評価 | 評点 | グレードポイント |
|---|---|---|---|
| 合格 | 秀（S） | 90～100 点 | 4.0 |
| | 優（A） | 80～89 点 | 3.0 |
| | 良（B） | 70～79 点 | 2.0 |
| | 可（C） | 60～69 点 | 1.0 |
| 不合格 | 不可（D）<br>（※１欠席　※２無資格を含む） | 59 点以下 | 0.0 |

■GPA の計算式と対象

$$\frac{(4.0\times\text{秀の修得単位数})+(3.0\times\text{優の修得単位数})+(2.0\times\text{良の修得単位数})+(1.0\times\text{可の修得単位数})+(0.0\times\text{不可の単位数})}{\text{総登録単位数}}=\text{GPA}$$

以下の科目は GPA の計算式の対象外となる。

①卒業単位にならない科目（教職課程などの特別課程）

②単位認定科目（評価「N」）

※１　試験を欠席した場合、評価は「欠席」となる。

※２　授業出席日数が不足している場合、評価は「無資格」となる。

■学修支援及び退学勧告

・正当な理由がなく、2 学年連続して GPA が 1.0 未満の場合、必要な学修支援をアドバイザーが行うことがある。

・３年次終了時に GPA が 1.0 未満の場合、退学を勧告することがある。ただし、アドバイザーが学生及び保護者の意見を聴取したうえで、成業を継続する意思があると判断されれば、この限りではない。

■GPA の算出時期について（１～３年生の場合）

算出は下記のとおり、年４回行っている。

前期成績発表時，９月末成績質問期間終了後

後期成績発表時，３月末成績質問期間終了後

■GPA の表示について

（１）成績通知書

成績通知書には３種類表示され、前期のみ/後期のみ/累計という表示になっている。

（２）履修登録画面（学内ポータルサイト）

各年度の GPA が表示される。

なお GPA については、所属する学部/学科・専攻コース等の中で各学生がどの位置にあるか（成績の分布状況）を把握することができるよう、学内ポータルサイトに表示する。

■成績結果発表

８月と２月に学内ポータルサイトにて発表を行う。

■成績確認

学内ポータルサイトにおいて確認できる。

■成績確認期間について

成績評価に関する問い合わせは、学生自身が期間中に学内ポータルサイト上で申請する。なお、この制度は成績評価の厳格さと正確さを確保するためのもので、担当教員との評価の交渉や、成績不振者に対する救済の機会を提供するためのものではない。

**③履修登録単位制限（CAP 制）**

本学は、年間履修登録履修単位数に上限を定めている。その理由は、多くの科目について広く浅く学修するのではなく、学修すべき科目を精選し、その科目について十分な時間を使って学修し、内容を真に身に付けるためである。（１科目に必要な学修の時間数がある/シラバスにも表記）大学として責任ある授業を展開していくための制度である。

・制限の対象は登録単位とする。（不合格・欠席・無資格になった科目も単位数に含む）

・学期毎の制限はしない。

・前期の成績結果を踏まえた履修登録変更の際、制限単位数を超えることはできない。

ただし、次の学生については、履修登録上限を超えて履修することができる。

→第３次編入学生および在学期間が４年を超えた学生。

| 学部 | 学科・専攻 | 制限する単位数（年間） |
|---|---|---|
| 文学部 | 日本語・日本文学科 | 44 単位 |
| | 英語学科 | |
| | アジア文化学科 | |
| 人間科学部 | 心理・社会福祉専攻 | 46 単位 |
| | 初等教育・保育専攻 | 48 単位 |
| 現代社会学部 | 現代社会学科 | 44 単位 |

制限対象外の科目

・卒業単位にならない科目（教職などの特別課程科目）

・海外研修、留学での履修科目

・卒業に必要な単位に含まれる学外で行う実習科目

・他大学での履修科目、資格による単位認定科目

・全学共通科目の「Social Project」「Global Project」

**④単位と学修の量**

授業科目にはそれぞれ「単位」という一定の基準（数値）が決められている。学修は、「授業」と「授業外学修（予習・復習含む）」からなっている。本学での学修時間は下記表のとおり。

| 授業形態 | 単位 | 学修時間 ※1 | 学修時間の内訳 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 授業時間 ※2 | 授業外学修時間（予習・復習含む） |
| 講義・演習 | 2 単位 | 4,050 分（90 時間） | 1,400 分（100 分×14 回（週）） | 2,650 分（約 190 分/週） |
| 演習・実習指導 | 1 単位 | 2,025 分（45 時間） | 1,400 分（100 分×14 回（週）） | 625 分（約 45 分/週） |
| 講義・演習（卒業論文、ゼミナール） | 4 単位 | 8,100 分（180 時間） | 2,800 分（100 分×28 回（週）） | 5,300 分（約 190 分/週） |
| 講義・演習（クォーター科目） | 1 単位 | 2,025 分（45 時間） | 700 分（100 分×7 回（週）） | 1,325 分（約 190 分/週） |
| 実技 | 1 単位 | 2,025 分（45 時間） | 1,400 分（100 分×14 回（週）） | 625 分（約 45 分/週） |
| 実習 | 2 単位 | 4,050 分（90 時間） | 4,050 分 | ― |
| 実習 | 4 単位 | 8,100 分（180 時間） | 8,100 分 | ― |

※１国の基準（大学設置基準）では、１単位に必要な学修時間を 45 時間と定められている。
ただし、ここでの１時間は、60 分ではなく 45 分として換算される。（１時間＝45 分）。
例）１単位＝45 時間（45 分×45＝2,025 分）／２単位＝90 時間（45 分×90＝4,050 分）
※２実習の場合は、実習時間のことをいう。

**●授業の種類（授業形態）**

| | |
|---|---|
| 講義科目 | 教員が教科書等の教材を使い学生に対して説明し、知識を授ける授業 |
| 演習科目 | 教員が教科書等の教材を用い学生に対して説明すると同時に、学生も討論や練習に加わる授業 |
| 実習/実技/実験科目 | 教員の指導のもとに、実際に作業を行い技術をみがき、知識・技能を修得する授業 |

2020 年 7 月（改訂）
2021 年 5 月（改訂）
2022 年 7 月（改訂）
2023 年 5 月（改訂）